

学校評価～最終評価の結果と分析・改善策～

本校の教育目標 「心豊かに 未来を切り拓く たくましい児童の育成」

めざす児童像 自分の考えを持つ子 自分を表現する子 人を大切にする子
他者と協働する子 チャレンジする子

①確かな学びのある学校づくり

○どの項目も肯定的な意見の割合が多い。

△保護者・児童共に、学習の取組や定着について不安がある。

分析 ・児童は学校研究に沿って意欲的に学習に取り組めるよう努めているが、テストの見える点数で自信が持てないのではないかと考えられる。

→ 改善策

・発展問題などを取り入れるなど、帯タイムの学習を工夫し、できた自信を持たせるようにする。

②温もりのある学校づくり

○児童の肯定的な意見の割合が多い。

△項目7において、保護者は「意欲的に登校している」と感じていない割合が増えたが、児童は「学校が楽しい」と感じている割合が100%である。

項目8において、一定数課題を感じている保護者が見られる。7月よりは僅かに肯定意見が増えた。

分析 ・生活アンケートや蛸島っ子面談、児童理解の会などを通して、児童について把握することが、「学校が楽しい」の割合の高さにつながっている。

→ 改善策

・児童の様子を観察し、小さなことでも児童理解の会等で情報を共有し、安心して登校できるようにしていく。

③健康な体を育む学校づくり

○教員・児童は、どの項目も肯定的な回答が90%以上である。

△保護者は、項目10において肯定的な回答が80%未満である。

分析 ・生活ふりかえりカードの事前指導を実施し、取組に対する児童の意識を高めることができた。一方で、家庭での基本的な生活習慣が定着していない児童も一定数みられる。

・スポチャレいしかわの記録の掲示を更新することで、他校や自分たちの記録を意識して取り組むことができた。

→ 改善策

・3学期は、生活ふりかえりカードの取組目標を保護者と共に決定する機会を設け、基本的な生活習慣についてさらなる意識の向上を目指す。

・なわとび大会に向けて、縦割り班で8の字跳びを練習することで、8の字跳びへの意欲とスキル向上を図る。

④地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

○どの項目も90%以上で、肯定的な回答が多い。

分析 ・全学年、2学期中も、地域のよさ（人的・物的・資源）を生かした体験的な活動を計画・実施することができた。実施したことを記入する取組を行うことで、全学年意識的に計画・実施できたと考えられる。

→ 改善策

・3学期は、これまでの活動を継続的に行いながら、「生活科・総合的な学習の時間発表会」で活動したことを発信できるようにする。

⑤教職員のチーム力を生かす学校づくり「チーム蛸島」

○項目14～16全て肯定的な意見が100%である。

分析 ・マイ定時退校日の月2回設定と第3水曜日の定時退校日が定着した。またスクールサポートスタッフが週2回本校で勤務するようになり、印刷業務などの仕事の軽減も影響していると考えられる。4～6月は時間外勤務時間が平均38.7時間であったのに対して、9～12月は更に25.7時間と減少した。見通しを持って業務にあたることで、ワークライフバランスを意識した勤務に努めることができた。

→ 改善策

・3学期には次年度へ向けた準備が必要となる。早めに提案することで、担当業務を1・2月に仕事を進め、3月に仕事が重ならないように工夫できるようにする。